

あ と が き

2002年度に実施した第1回学生生活調査から5年目に相当する2006年12月1日現在における本学学生の実態を調査した。前回の調査時点は、地域福祉学科設置3年目であった。その後2004年度に地域看護学専攻科(保健師養成の1年課程)を設置、さらに阿新広域事務組合が設置する形態から、2005年度に1市・4町の合併によって新見市立に移行した。同年、地域看護学専攻科が独立行政法人 大学評価・学位授与機構によって「学士」が申請できる認定専攻科となった。その後、2008年度に本学は法人化(公立大学法人)に移行した。

学生募集状況について、前回調査時点(2002年度入学生)の志願者数は看護学科453人、幼児教育学科241人、地域福祉学科128人の合計822人であったが、今回調査の2006年度入学生では、看護学科306人、幼児教育学科208人、地域福祉学科91人の合計605人へと26%減少している。18歳人口の減少と高学歴指向によるものと推測される。本学入学者の併願先についても、他の短期大学の併願が大きく減少し、四年制大学の併願者の増加からも、このことがうかがえる。

前回調査との大きな社会的な変化は、ITC技術の進展である。例えば入学前に本学の情報をどのように入手したかの質問に、大学案内からは前回の70%から今回の43%に減少したのに対して、ホームページは前回の9%から38%へと増加し、特に1年次のみを通算するとホームページの利用者(59%)と大学案内(46%)を上回っている。また、パソコンの保有率は前回の23%から今回の60%(地域福祉学科を除く2学科では76%)に、自宅でインターネットを利用する割合は前回の12%(看護学科3年次では26%)から今回の27%(看護学科1年次では42%)に増加している。

一方、多くの項目では本質的な変化はなく、本学の学生気質ともいえるものが確立しているようである。

今回の調査では、担当委員の転出等で集計に思わぬ時間を要したことをお詫びしたい。また、はじめてインターネットを介して、その内容を開示することとした。

最後に、調査にご協力をいただいた学生諸氏および教職員に厚くお礼申し上げます。